

## 事例 30

### タイトル: いつも家族の心配をし、繰り返したずねるAさん

#### ・ <事例の状況>

Aさんは、「お父さんはどこに行ったか知らないかね。」「子はまだ帰らないけど知っているかね。」「私はいつ帰れるのか知らないか。」と一日に何度となく繰り返し職員にたずねる。職員は「仕事に行っていますよ。」とか「お父さんは病院にいますよ。」と不安を解消しようと優しく声をかけるのだが、一旦は納得したり、安心したりしてもすぐ忘れてしまい同じ質問を繰り返す。夫は2年程前に死亡しているが本人はわかっていない。職員はAさん一人だけを対応できないので話を聞いてあげられないと、他の利用者と同じことを何度も繰り返して言ってしまい、時々利用者同士の言い争いになったり、仲間はずれになったりして、不安が増大し職員の後ばかりついて歩いてしまう。

#### ・ <この事例で課題と感じている点>

繰り返される同じ質問に職員がどう答えて良いのかわからない。対応の仕方によっては不安が増大してしまう。他の利用者から馬鹿にされてしまい、仲間はずれになったり、言葉の暴力を受けたりしてしまう。

#### ・ <キーワード>

同じ質問を何回も繰り返す 不安になる 一人でいられない

#### ・ <事例概要>

【年齢】 80歳代後半

【性別】 女性

【職歴】 家事手伝い

【家族構成】 夫と施設で暮らしていたが2年程前に夫死亡

【認知機能】 HDS - R 0点

【要介護状態区分】 要介護3

【認知症高齢者の日常生活自立度】

【既往歴】 特になし

【現病】 アルツハイマー型認知症

【服用薬】 アリセプト

【コミュニケーション能力】 会話は成立するが同じことを繰り返して聞く

【性格・気質】 温厚で負けず嫌い

【ADL】 歩行・排泄・入浴・食事は自立

【障害老人自立度】 A1

【生きがい・趣味】 歌を歌うこと（英語の歌も歌える）

**【生活歴】** 裕福な田舎町の家生まれ、姉妹と共に可愛がられて育つ。車で 1 時間かけて隣の県の学校に通ったことを楽しげに話す。学校卒業後は姉が家業を継ぎ、Aさんは親の勧めにより結婚する。転勤の多い夫に従い県内をあちこち移動する。3人の子供にも恵まれた。子供達はそれぞれ結婚し独立するとともに、X市にて夫との二人暮らしとなる。夫が次第に視力障害と歩行力低下になりAさんは介護をするが、自身も認知症を発症し夫婦で施設に入居となる。しかし、Aさんの認知症は徐々に進行し施設での暮らしが困難となり、長男の住んでいる遠方の施設入居となる。認知症の症状はさらに進み、夫の状態も悪くなり在宅復帰は困難となる。最終的には慣れ親しんだX市にて施設を探したいとの家族の意向があり、AさんはX市グループホームへ入居となる。

**【人間関係】** 認知症の周辺症状により仲間外れになったり、他人からできないことを批判されてしまったりする。

**【本人の意向】** 早く家に帰りたい。子供や夫が心配（夫は2年程前に死亡）。

**【事例の発生場所】** グループホーム